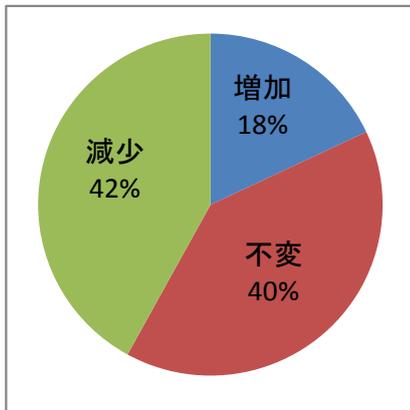


■ データから見た業界の動き

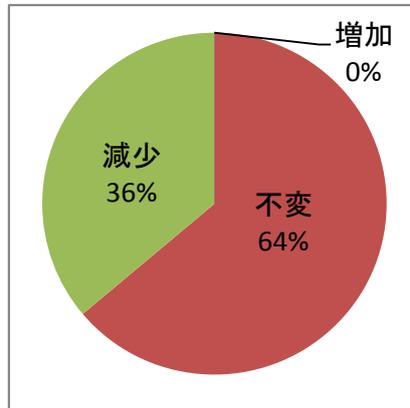
(平成24年12月分)

● 2011 / 12

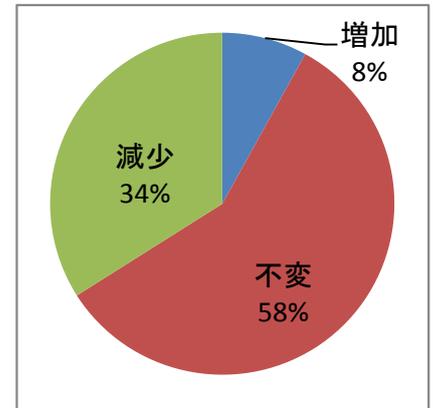
売上高(前年同月比)



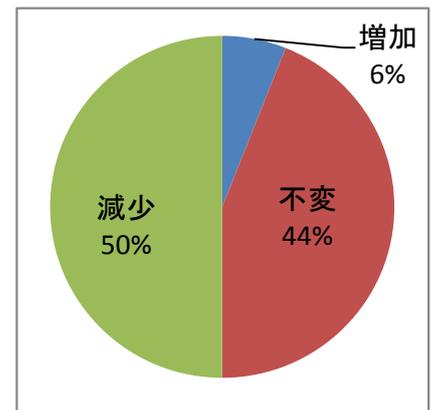
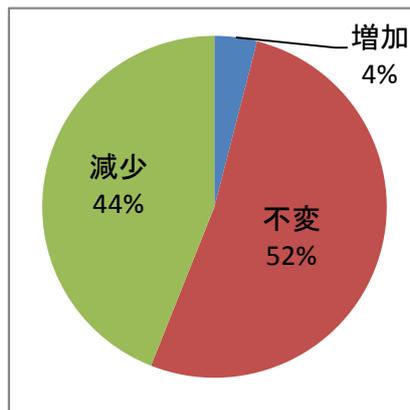
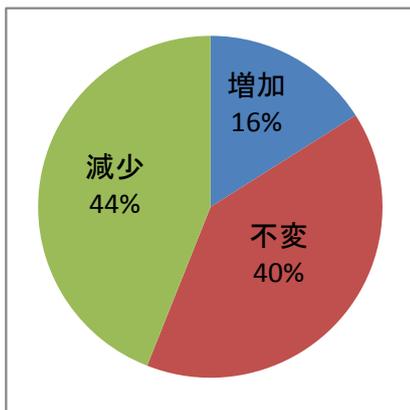
収益状況(前年同月比)



景況感(前年同月比)



● 2012 / 12



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値

(好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2011/12	2012/11	2012/12	2011/12	2012/11	2012/12	2011/12	2012/11	2012/12
売上高	-40	-30	-40	-13	-27	-20	-24	-28	-28
収益状況	-40	-45	-50	-20	-40	-33	-28	-42	-40
景況感	-35	-45	-55	-20	-33	-37	-26	-38	-44

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の12月の景況は、全業種のDI値が、売上高-28(前年同月比-4)、収益状況-40(前年同月比-12)、景況感-44(前年同月比-18)となっており、業種別のDI値では製造業で、売上高-40(前年同月比±0)、収益状況は-50(前年同月比-10)、景況感は-55(前年同月比-20)。非製造業で、売上高-20(前年同月比-7)、収益状況-33(前年同月比-13)、景況感-37(前年同月比-17)となっている。

前年同月比では、製造業、非製造業ともに全ての項目で大幅にDI値が悪化している。前月比では、非製造業の売上高、収益状況ともに7ポイント回復したものの製造業は全ての項目で大幅にDI値が悪化している。

情報連絡員による県内の12月の業況報告は、全体的に厳しい状況が続いている。製造業では、依然として受注・仕事量の減少などに歯止めがかからず、先行きを懸念する業界が多い。

また、非製造業でも一部で季節的な要因も含め好調となった業種が見受けられるものの、海外景気の減速や円高、尖閣諸島国有化等の問題から回復傾向にあった県内景況は、12月2日の中央自動車道の笹子トンネル天井板落下事故の影響により宿泊業を中心に被害報告があった。

今後、県内の中小企業の多くは、依然として先行きの全く見えない状況下で、不安を募らせている。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

● 製造業

食料品（水産物加工）	おせち関係は前月に前倒し発注が多かったため不振だったが、ギフトは好調で売上は前年同月比101%。
食料品（洋菓子製造）	クリスマスケーキの売上は好調。また、新製品も順調のため売上は前年同月比104.9%。今後、小麦粉等の値上げもあり収益面は厳しくなる。
食料品（菓子）	売上が昨年より減少している。来月から小麦粉が15%値上がりするが売価転嫁が難しく、ますます収益が悪化する見込み。
繊維・同製品（織物）	寒さの影響で冬物が好調であったが、追加発注には繋がらなかった。ネクタイは春物が好調。傘関係も春向けの商品は前年よりは良い。
印刷	例年忙しい年末だが、操業度は低い。取引条件や販売価格は下落を続けている。
窯業・土石（生コン）	リニア特需の反動もあり前年同月比80%の厳しい状況である。平成25年1月には砕石骨材の値上げも予定されており、原料及び諸経費の負担増で業況はさらに悪化するものと思われる。
鉄鋼・金属(1)	業界全体で仕事量が減少している。先行き不透明。
鉄鋼・金属(2)	自動車関連を含め、ますます受注状況は悪化している。
一般機器(1)	親会社の中国向けの仕事が停止しているため、在庫が増加している。
一般機器(2)	スマートフォンやタブレットの型枠のみ一時的に受注量は増加傾向にあるが、年明け以降の動向は不透明である。
電気機器	発注先の海外移転や中国国内の日本製品の売上不振、円高の影響が売上不振の要因となっている。
その他(貴金属①)	円安で輸入単価は上がっている。国内の景気回復を期待する。
その他(貴金属②)	仕事がなく厳しい状況である。

● 非製造業

小売（青果）	組合員の売上不振が続いている。
小売（食肉）	震災や放射能問題により福島からの牛の出荷頭数が少なく相場は高い。豚肉は安値で推移した。ギフトに関しては、ハム等の加工品が好調だった。
小売（水産物）	中央道笹子トンネルの崩落事故の影響により県内の宿泊施設やゴルフ場等への納入が減少した。
小売（電機製品）	冷蔵庫や省エネ家電は好調。太陽光発電への取組がやや活発化しつつあるが、量販店も含め年末商戦は低調であった。
小売（事務機文具）	低価格競争が厳しく企業の存続を不安視している。
小売（石油）	政権交代により円安ドル高が大幅に進み、原油輸入価格が上昇しガソリン、軽油の元売り価格が1リットルあたり5円程度値上がりしたため県内の各SSは販売価格を5円程度値上げした。灯油についても需要の大幅増により5円程度値上げした。
商店街（1）	全国商店街振興組合連合会の補助金を受け商店街と地域百貨店、地方銀行の連携事業を行った。集客はあったものの選挙や厳冬により売上には結びつかなかった。しかし、地域活性化の一步となった。
商店街（2）	中央道笹子トンネルの崩落事故の影響によりビジネス客や観光客が極端に減少した。また、忘新年会ともに例年を下回った。
宿泊業（1）	中央道笹子トンネルの崩落事故の影響により予約がキャンセルになったり、予約が入らない状況が続いている。また、対面通行となったが事故が多発し安全性への不安や渋滞等が予測されるため、客足が遠のいている。
宿泊業（2）	中央道笹子トンネルの崩落事故の影響によりキャンセルが相次いだ。また、新規の予約も例年と比べ激減している。
美容業	年末年始の需要期により売上は増加したが、年間売上は前年を下回ったと思われる。
警備業	中央道笹子トンネルの崩落事故の影響により業務が増加した。今後、当該事項関連業務が更に増加する見込み。
建設業（鉄構）	安値で推移している。
運輸（タクシー）	燃料の高騰や消費税の値上げ等、経営を圧迫する要因が多く今後の見通しがつかない。
運輸（トラック）	中央道笹子トンネルの崩落事故の影響により労働時間の増加がコスト増に繋がった。売上高は増加したが、高止まりしている燃料費等の運行経費が増加し収益を圧迫している。